

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 岡山市立興除中学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒701-0213

岡山県岡山市南区中畦589-4

E-mail [kojoc@city-okayama.ed.jp](mailto:kojoc@city-okayama.ed.jp)

Website

幼児児童生徒数 男子 220 名 女子 200 名 合計 420 名

幼児・児童・生徒の年齢 12歳～15歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「自学・誠実・友愛」を校訓に掲げ、重点目標の一つである「地域に根ざした開かれた学校づくり」を、ESDの理念に共通していると捉え、ESDの実践を通して地域発展に貢献し、地球の未来を考え行動する力の育成を目標とした。

具体的には、地域、自分の生き方、地球の未来を柱に、①地域に係わる活動、②職業に係わる教育、③防災に係わる学習、④平和に係わる学習を行った。

### ① 地域に係わる活動

クラスごとにオリジナル興除CMを制作し、文化祭で生徒、保護者、地域の方々に向けて放映した。地域の方々(公民館で講座を持たれている)をお招きして、生け花、茶道、箏、水墨画、絵手紙、押し花、フラダンスなど普段は学べないことを体験した。地域に感謝の気持ちを表す意味をこめて、自分が住んでいる町内の公園などの清掃奉仕活動を、PTAや地域住民の方々と協力して行った。

## ② 職業に係わる教育

卒業生を招き、これから進路を選択していくうえでの経験に基づいたアドバイスを聞いた。外部講師による「働くとは」をテーマにした講話を聞いたり、実演を見たり体験したりして、職場体験学習に向けての心構えを作った。地域の事業所の協力を得て、職場体験を行った。いろいろな仕事を体験する中で将来、また、現在、E S Dの視点で自分は何ができるかを考えた。

## ③ 防災に係わる学習

災害の恐ろしさについて学習し、避難グッズについて知った。カードゲーム『シャッフル』を使っての防災知識の習得を行った。起震車体験、煙道体験、土嚢作り体験、消火器の使い方の講習、救急蘇生法学習会を行った。防災フィールドワークを実施し、班ごとに防災マップにまとめ、校内で発表会を行った。避難所を体験することを目的に、体育館で防災キャンプを行った。その中で、非常食の試食、段ボール製簡易トイレ、新聞紙を材料にした食器・スリッパの制作などを行った。

## ④ 平和（国際理解）に係わる学習

原爆の語り部さんを中学校へお招きし、平和講話を聞いた。実際に広島を訪れ、班別自主研修、平和集会、ピースボランティアの方のお話などから、平和について真剣に考えた。世界に目を向けることを目標に、岡山市に関する紹介文を英語で作成し、外国人留学生に岡山市を紹介する交流会を行った。また、生徒の有志がアメリカ・ワシントン州の小学校と手紙やカードを使った交流会を行った。



① オリジナル興除CM



② 「働くとは」講話・実演



③ 防災マップ作り



④ 語り部さんによる平和講話

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ・カードゲーム『シャッフル』
- ・防災すごろく

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

学校経営計画書の中で、今年度の重点目標と具体的な方策を掲げているが、その一つとして、「教科・領域等すべての教育活動にESDの視点を取り入れ、実践する。」と位置付けている。

指導内容は、1年生は防災学習、2年生は職業体験、3年生は平和学習を中心に、また、全学年をとおして地域とのつながりを大切にすることを目指している。

指導方法としては、中学校の教員が指導するだけでなく、外部から講師を招いたり、卒業生に話をしてもらったりして、興味をもって取り組めるようにと考えている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学校行事の計画を立てる際、その目的の中に、ESDの基本概念と態度の中のどの力を身につけさせたいかをはっきりと明示するようにした。職員会議の要項の中にそれを書き入れ、計画を提案するときに、教職員が意識できるようにした。

道徳の全体計画（別葉）や年間指導計画の中でESDと関連する部分を見つけ、道徳の授業をする際に、ESDを意識して教員が声かけをするようにした。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校評価アンケート（生徒用・保護者用・教職員用）で、学校は地域に開かれているかという項目を挙げ、意見を聞いている。どの対象についても、ほぼ7割程度が、「開かれていると思う」となっている。

地域から講師を招いてのゲストティーチャー講座や、生徒が地域に出る行うフィールドワーク、「地域感謝活動（清掃ボランティア）」などによる効果ではないかと思われる。さらに、範囲を広げて、市外、県外、海外と意識できればよいと考える。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

文化祭で、保護者や地域の方々に向けて、興除のCMや平和学習の成果を公表した。

また、「ESDの視点をもって進める道徳教育」というテーマで実践してきたことを、中国中学校道徳教育研究大会で提案発表した。ESDと道徳を結びつけるという考え方を伝えることはできたが、その効果については、これから検証していきたい。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

公民館の文化祭などで、中学校での取り組みや作品を展示発表することがあった。

ESDコーディネーターの方と直接連絡をとるということはしなかった。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)  
※チェック事項 2-4 に対応

アメリカ、ワシントン州の小学校と手紙やカードによる交流を行った。(ユネスコスクールのネットワークを活用しての取り組みではなく、教員の個人的な知人を介してのつながりをもとに)

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

防災学習の一環として、防災キャンプ（避難所体験）を行ったが、その体験をとおして、生徒には「自分たちは大人からしてもらって立場ではなく、自分たちが地域の人たちのためにできることをする立場なのだ。」という意識が芽生えたようである。つまり、生徒のリーダーが、避難所の受付をし、体育館の中での各世帯（各クラスの班）の避難スペースの配分をし、非常食の配給をすることで、避難所運営の流れを知ったことが、意識の変化をもたらしたと考えられる。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

基本的には、本年度の活動を継続していきたいと考えている。

防災学習については、近隣の保育園や小学校と合同の避難訓練を実施出来たらと考えている。津波発生時、生徒が園児の手を引いたり、抱いたりして高所へ避難する方法などを確認したい。また、公民館や市の災害対策室と連携して、中学生が避難所のボランティアリーダーとして活動できるレベルまで、意識や技能を高めていきたい。さらに、給食センターの栄養士と協働し、非常食を食べる時の工夫についても検討することを計画である。

地域学習については、地域に出向いたり、地域との交流を盛んに行ったりして、地域との連携を推進していきたい。

平和学習については、アメリカの小学校との交流を来年度も継続し、国際理解をより深め、平和について考える一つのきっかけにし、それを行動に移せるようにしていきたい。